

リモートサポート&管理

PC・サーバー・Mac・タブレット・スマートフォン・組み込み端末

Windows・macOS・Android・iOS・CE

WiseMo ゲストモジュール

お使いの Windows PC で



WiseMo ホストモジュール

お使いのコンピューターまたは端末で



WiseMo は、PC やサーバー、Mac コンピューター、スマートフォン、タブレット端末、その他の携帯型／無人端末間など、コンピューターや端末間の遠隔操作を可能にするソフトウェアを開発しています。WiseMo のソフトウェアを使用すれば、業務効率を大幅に向上させる強力な遠隔制御・管理機能を利用でき、時間とコストの節約が可能です。

ゲストモジュール&ホストモジュール

WiseMo のゲストモジュールは、遠隔操作を行いたい他のコンピューターや端末にアクセスするためのコンピューターまたは端末上で動作します。

WiseMo のホストモジュールは、認証されたユーザーがゲストモジュールを使用して安全にアクセスできるよう、コンピューターや端末上で動作します。

クラウド&オンプレミススペース接続方式：

ゲストモジュールとホストモジュール間の接続は、WiseMo の myCloud ソリューション（インターネット経由）または LAN/WAN ネットワークを直接介して（TCP/IP 直接接続）のいずれかで確立されます。

インターネット経由の接続の場合（WiseMo myCloud）には、お使いのコンピューターまたは端末がインターネットにアクセス可能である必要があります。具体的には、固定回線、Wi-Fi、またはモバイル通信事業者のネットワーク（3G、4G、5G）などを介してアクセスできることが必要です。これにより、ゲストコンピューターとホストコンピューター/端末の両方でインターネットに接続できる環境であれば、場所を問わず任意のコンピューターや端末にアクセスできるようになります。

LAN（Wi-Fiまたはケーブル）またはWAN経由でTCP/IPを使用したオンプレミス接続の場合、インターネットトラフィックやモバイル通信事業者からのデータ料金を回避することが可能です。ただし、以下の点について適切に管理する必要があります。
ファイアウォールの設定を行い、ゲストモジュールからホストモジュールへの通信を可能にする必要があります。

Windows 搭載 PC 用のゲストプログラムです。

このガイドでは、Windows 搭載 PC で使用するリモートデスクトップ用ゲストモジュールである Windows ゲストアプリのインストール方法、設定方法、使用方法、およびアンインストール方法について詳しく解説しています。簡単に迅速、かつ安全なコンピューターや端末のリモート制御を可能にし、WiseMo ホストモジュールを搭載したシステムを操作できます。

注意：このゲストガイドでは、少なくとも 1 つの WiseMo ホストモジュールがコンピューターまたは端末にインストールされており、myCloud 接続経由または TCP/IP 直接接続のいずれかでアクセス可能な状態であることを前提としています。ホストモジュールの設定方法については、当該モジュールのチュートリアルを参照してください。利用可能なドキュメントはこちらから確認できます：

<https://its.tos.co.jp/support/download/wisemo/>



WiseMo は、PC やサーバー、Mac、スマートフォン、タブレット、その他の携帯型／無人端末間で使用する、クラウドベースおよびオンプレミススペースの遠隔操作ソフトウェアを開発しています。当社のクロスプラットフォームソリューションは、商業・産業用途のリモートサポートおよび管理（RSM）市場を対象としています。

詳細については <https://its.tos.co.jp/products/wisemo/> をご覧ください。

1. Windows ゲスト プログラムのインストール

このプログラムは Windows PC にインストールされ、PC、サーバー、Mac コンピューター、タブレット、スマートフォン、その他の携帯型または無人端末にアクセスしてリモート操作を行うことができます。本プログラムは Windows 11、10、8.x、7、Vista、および XP（myCloud 接続には https サポートが必要です）で動作します。また、すべての Windows サーバー（Windows 2003 以降）でも動作します。

1.1 インストールファイルのダウンロード

ゲストプログラムのインストールファイル（.msi 形式）は、様々な方法で入手できます。例えば、WiseMo myCloud ドメインの「展開」タブや、納品メールに記載されたダウンロードリンクなどから入手できます。

弊社ホームページから直接プログラムをダウンロードすることも可能です。

<https://its.tos.co.jp/product-update-modules/wisemo/>

myCloud ドメインの「展開」タブからダウンロードする場合（ブラウザでログオン）、Windows 用のゲストリンクをクリックすると、ダウンロードページが表示されます。なお、ダウンロードリンクはメールなどで対象 PC に直接送信することも可能です。

1.2 ゲストプログラムのインストール

インストールファイルを実行すると、セットアップウィザードが起動し、ライセンス条項への同意を求められます。また、デフォルトのインストール先ディレクトリを変更することもできます。インストールプロセスでは、セッション記録機能のために Cisco 製のビデオコーデックファイルのダウンロードが推奨されます。インターネット環境がない場合やこの機能が不要の場合は、このダウンロードチェックを外してください。

Windows はプログラムのインストールを許可するようプロンプトを表示しますので、インストールを実行するには Windows 管理者権限が必要です。

インストールが完了すると、プログラムと構成ウィザードが自動的に起動します。



1.3 構成ウィザードについて

構成ウィザードでは、一般的に利用される設定オプションを順番に案内します。設定完了後は、ゲストプログラムのホームタブからウィザードを再度起動できます。以下に各ウィザードページの簡単な説明を記載します。表示されるページは、ウィザード内での以前の選択内容やゲストの全体的な状態によって異なります。

1.3.1 ライセンスモードの選択

ライセンスファイル（guest.lic）が見つからない場合、ウィザードがライセンスの種類を選択するよう求めます。

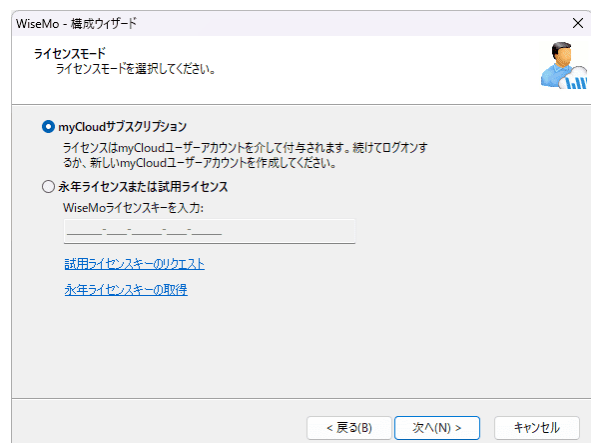
a. myCloud ドメインを介したライセンス登録

myCloud ドメインを所有している場合、このドメインにログオンすることでプログラムをライセンス認証できます。myCloud サブスクリプションを選択し、「次へ」をクリックしてください。

次に、myCloud のユーザーアカウント資格情報（通常はメールアドレスとパスワード）を入力します。アカウントが二要素認証（2FA）で保護されている場合は、検証コードの入力が求められます。

b. ライセンスキーを介したライセンス登録

ライセンスキー（試用版または購入した永続ライセンスキー）を入力することでプログラムをライセンス認証できます。ライセンスキー入力欄にキーを貼り付け、「次へ」をクリックしてください。



ライセンスキー方式を使用することで、インターネット接続が利用できない環境でもプログラムを動作させることが可能になります。このライセンスキー方式では、インターネット接続があり myCloud ドメインを契約している場合に、myCloud を接続手段として利用することも可能です。ウィザードでは、myCloud ドメインへのログオンオプションが提供されます。

1.3.2 ユーザーインターフェース設定オプション

デフォルト設定の一部を変更するオプションが用意されています。ゲスト向けの設定については、プログラムのユーザーインターフェースから直接変更することができます。また、これらの設定についてはセクション 9 で詳細に説明しています。

1.3.3 設定の完了

「完了」ボタンを押して設定を完了してください。ウィザードを使用してライセンスを取得した場合、「ライセンスの適用に成功しました」というメッセージが表示されます。設定ファイル **guest.xml** とライセンスファイル **guest.lic** が保存/更新されます。詳細はセクション 10 を参照してください。もしウィザードを途中で終了した場合、プログラムが実行可能な状態にライセンスされていない可能性があり、デフォルト設定の変更も反映されません。再度ウィザードを実行するには、ゲストから ホームタブを選択し、ウィザードボタンを押してください。

注意：既にライセンスファイルが存在する場合、ウィザードはライセンスの入力を求めません。ウィザードにライセンスの入力を促したい場合は、**license.lic** ファイルを削除してください。

2. ゲストプログラムの使用方法

Windows ゲストプログラムは、操作者がいる環境・無人環境を問わず、リモートコンピューターや端末の管理・サポートを可能な限り効率的に行うための多彩な機能を備えた強力なツールです。

2.1 接続の具体例

ゲストプログラムは、簡単な作業から高度な作業まで幅広く対応可能です。以下に、基本的な接続方法の例をいくつかご紹介します。いずれもプログラムの標準設定を使用したものです。

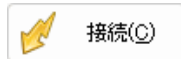
2.1.1 「LAN とすべての接続」を介したリモートデスクトップ制御

TCP/IP ネットワーク上の遠隔コンピューターや端末を制御する一般的な方法として、IP アドレスまたはコンピューター名を指定し、接続を確立する方法があります。

左側のメニューから「LAN とすべての接続」を選択してください。

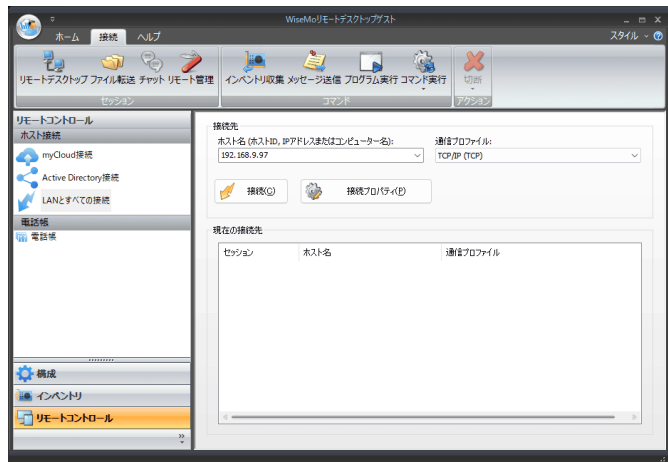
ホスト名フィールドに IP アドレスを入力します。

「接続」ボタンをクリックします。



(または上部の「接続」タブにあるリモートデスクトップボタンをクリックします。)

プログラムはリモートコンピューターまたは端末上で動作している **WiseMo** ホストモジュールに接続します。



お使いの PC 上で、別ウィンドウが開きリモートデスクトップが表示されます：

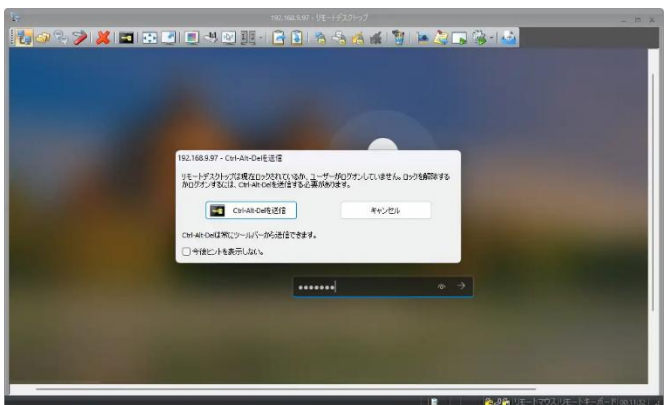
これで遠隔地のコンピューターを操作できるようになります。ゲストコンピューターのマウス操作やキーボード入力は、リモートホストコンピューターまたは端末上で実行されます（ウィンドウがフォーカスされている場合）。



ポップアップウィンドウまたはツールバーのこのボタンをクリックすると、ホストに **Ctrl+Alt+Del** キーが送信されます（例：Windows PC のログオン画面を表示させる場合など）。



ウィンドウ内でリモートデスクトップ全体を表示できるように簡単に拡大表示できます（リモートコントロール時に利用可能なすべてのオプションについては、3.1 を参照してください）。



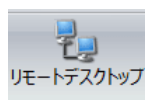
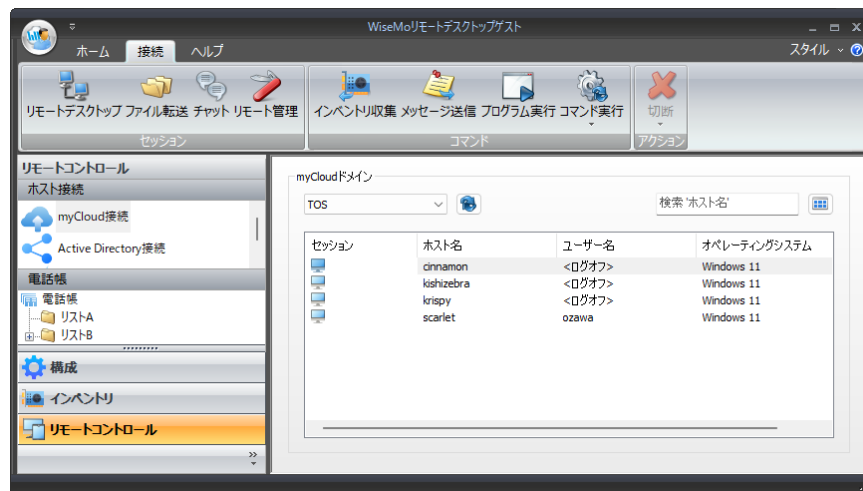
2.1.2 リモートデスクトップ制御を「myCloud 接続」経由で行う

myCloud ドメインを設定し、ゲストユーザーがログオンした状態で、リモート制御したいホストをダブルクリックするだけで操作を開始できます。

メニューから左ペインの「myCloud 接続」項目を選択してください。

まだ設定がお済みでない場合は、myCloud ドメインにログオンしてください。オンライン状態のホストコンピューターまたは端末の一覧が表示されます。

制御したいホストをダブルクリックするか、右クリックして「リモートデスクトップ」オプションを選択してください。



リストからホストを選択することも可能です。接続タブにあるリモートデスクトップボタンを使用してください。

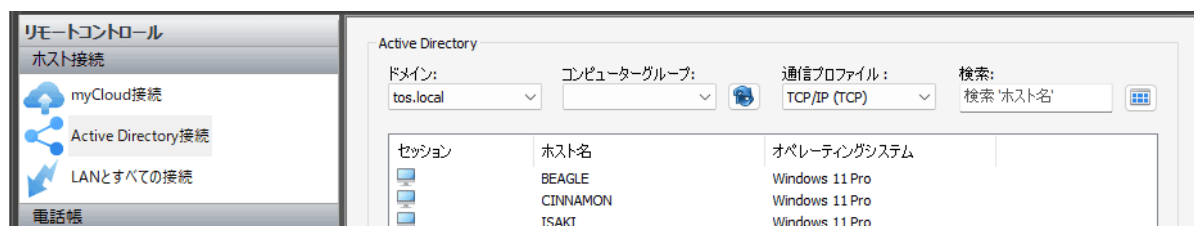
プログラムがホストに接続し、リモートデスクトップ制御用の別ウィンドウを開きます。これにより、遠隔地のホストコンピューターまたは端末のデスクトップ画面が表示されます。

ウィンドウを選択して、実際にその前で操作しているかのようにリモートホストコンピューターを遠隔操作できます。



2.1.3 「Active Directory 接続」を利用したリモート制御

ゲストコンピューターが Windows ドメインに参加している場合、「Active Directory 接続」という第三の接続オプションが利用可能になります。



専用の Active Directory グループを作成・管理することで、ドメイン管理者はゲストユーザーがアクセス可能なコンピューターを一元的に制御できます。この際、WiseMo 専用のサーバー設定は一切必要ありません。「ドメインとコンピューターグループ」を選択すると、利用可能なコンピューターが表示されます。「WiseMo ホストの有無を確認」にチェックを入れると、WiseMo ホストがインストールされているコンピューターのみが表示されます。表示されたリストから、操作したいホストをダブルクリックするか、右クリックして「リモートデスクトップ」オプションを選択してください。

2.1.4 スマートフォンやその他の端末のリモート制御

スマートフォン、タブレット、あるいはハンディスキャナーなどの端末上で動作しているホストに接続すると、リモート画面だけでなく、端末自体の画像（「スキン」と呼ばれる）も表示されます。

スキン上のボタンは操作可能になっており、PC から端末を手元で操作しているのと同じように簡単に制御できます。マウスでボタンをクリックするだけで操作可能です。



また、PC のキーボードを使用してキー入力を端末に送信することもできます。例えばテキストを入力する場合などに便利です。リモートデスクトップ画面上で PC マウスをクリックすれば、アプリのアイコンなどを選択する操作も可能です。

初めて端末に接続する際、ゲストモジュールはスキンをダウンロードします（利用可能な場合）。ダウンロードできない場合にはデフォルトのスキンが使用されます。

プログラムの設定により、スキンを表示せずにリモートデスクトップのみを表示させることも可能です。この場合、ホームキーや戻るキー、音量調整キーなど、端末固有の操作にはツールバーのボタンを使用してください。また、スキンを透過モードで表示させるオプションもあります。この場合、ウィンドウ枠内にはスキンが表示されず、デスクトップ上に浮かんでいる状態で表示されます。スキン自体を右クリックするとメニューにアクセスできるほか、画面上のフローティングツールボックスを探すこともできます。

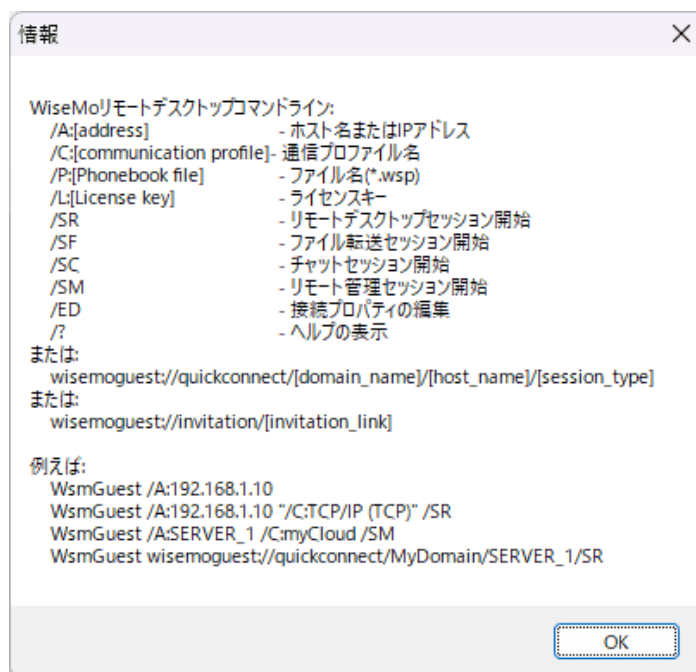


2.1.5 コマンドラインからのリモート制御

コマンドラインを使用してホストに接続することが可能です。

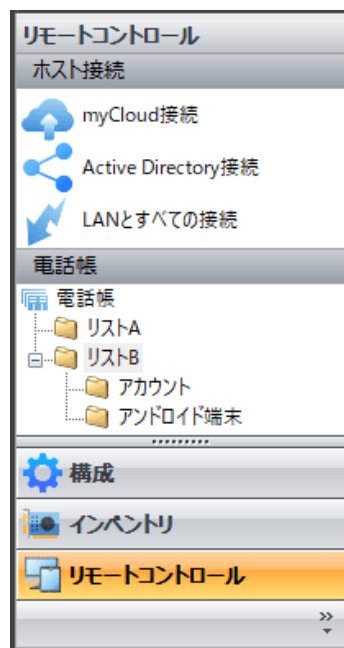
例えば、コマンドプロンプトを開き、ゲストプログラムが配置されているフォルダ（例：
C:\Program Files (x86)\WiseMo\WiseMo RSM\Remote Desktop Guest）に移動し、次のコマンドを実行します：**wsmguest /?**

ゲストプログラムが起動し、コマンドラインオプションとその使用例が表示される画面が表示されます。



2.2 ゲストプログラムの構成

ゲストモジュールは、上部にリボン形式のツールバー、左側のペインにナビゲーションバーを配置した構成になっています。ナビゲーションバーに表示される内容は、選択したメニューカテゴリによって異なります。メニューカテゴリはナビゲーションバーの下部で選択でき、リモートコントロール、インベントリ、構成の中から選択できます。各メニュー項目の詳細な内容は、右側のペインに表示されます。



メインカテゴリは「リモートコントロール」です。ここから、接続するホストを定義・選択します。ホストの選択または定義には 3 (4) つの方法があります (UI から) :

myCloud 接続

myCloud ドメインにログオンし、接続可能な myCloud 対応ホストコンピューターおよび端末の一覧を表示します。

Active Directory 接続

このビューは、ゲストコンピューターが Windows ドメインのメンバーである場合にのみ利用可能です。ドメイン管理者は、どのコンピューターをゲストユーザーに表示するかを定義できます。

LAN とすべての接続

このビューには現在のすべての接続状況が表示されます。また、特定のホストコンピューターに接続する場合、そのアドレスを入力するだけで接続可能です (通常、ゲストコンピューターとホストコンピューターが同じ LAN 環境にある場合に使用します)。

電話帳

この機能は階層構造のフォルダベースのリストで、個々の接続プロパティを設定したホストコンピューターのエントリを定義でき、ホストコンピューターのエントリをフォルダ単位でグループ化することができます。

インベントリ情報は 2 番目のカテゴリで、収集したインベントリデータと一部のデータのグラフィック表示を提供します。

3 番目のカテゴリは構成で、プログラムとその使用を最適化するための様々なオプションが用意されています。プログラムの詳細な設定については 9. の「構成メニュー」を参照してください。

リボンツールバーの上部には 3 つのタブがあります。



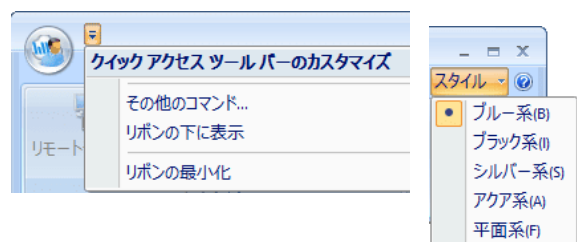
「ホーム」タブは主に言語選択に、「ヘルプ」タブはサポート情報やその他リソースへのアクセスに使用しますが、「接続」タブは、右側のペインで選択したホストに対してタスクを実行する際に通常使用するタブです。例えば、リモートデスクトップセッションの開始や、ゲストとホスト間のファイル転送セッションの開始などに使用します。

各タスクについて説明するツールチップが用意されています。対象のボタンの上にカーソルを合わせてください。

リボンツールバーは様々な方法で設定可能です。

例えば、ツールバーを最小化したり、クイックアクセスツールバーにコマンドを追加したりできます (右図参照、ここでは「切断」コマンドが追加されている状態を示しています)。

ゲストアプリケーション全体の視覚的なスタイルを変更することも可能です。



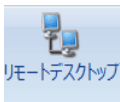
2.3 接続タスク

接続タスクは、接続タブに表示されるボタンから実行できます。接続タスクは、右側のペインで選択されたホストに対して実行されます。複数のホストを選択した場合、タスクはすべての選択ホストに対して実行されますのでご注意ください。

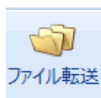
利用可能な接続タスクは以下の通りです：

セッションタスク

選択したホストと特定のセッションを確立します。セッションは、切断するまで継続します。有効化されたボタンを再度クリックすることで、既に確立されているセッションを終了させることができます。



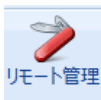
選択したホストに対してリモートデスクトップ制御セッションを開始します。ホストごとに個別のウィンドウが開きます。このウィンドウにはリモートホストの画面が表示され、このウィンドウから遠隔地のコンピューターや端末を操作することができます。



選択したホストとの間でファイル転送セッションを開始します。ホストごとに独立した分割画面のファイル転送ウィンドウが開かれます。これにより、ゲスト PC とリモートホスト間で簡単にファイルをドラッグ&ドロップで転送することができます。詳細については、セクション 4「ファイル転送」の項を参照してください。



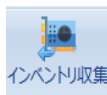
選択したホストとの間でチャットセッションを開始します。ホストごとに独立したウィンドウが開き、リモートユーザーとテキストメッセージを送受信できます。



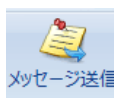
選択したホストとの間でリモート管理セッションを開始します。ホストごとに独立したウィンドウが開き、その中にリモート管理コンソールが表示されます。詳細については、セクション 5「リモート管理コンソール」の項を参照してください。

コマンドタスク

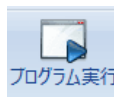
このボタンを押すと、ホストへの接続が確立され、タスクが実行された後、接続が切断されます。コマンドウィンドウにはコマンドの実行状況が表示されます。コマンドタスクは、複数のホストを選択する場合によく使用されます。



ホストに接続し、ハードウェアとソフトウェアの「インベントリ」を収集します。収集結果は保存され、画面下部の左側パネルにある「インベントリナビゲーション」カテゴリから参照できます。



画面が表示され、メッセージを作成してホスト端末に送信できます。送信されたメッセージは、ホスト端末の画面上に表示され、ユーザーが閉じるまでそのまま表示され続けます（ホストコンピューター上）。



画面が表示され、ホスト端末上で実行するプログラムを定義できます。例えば、特定のアプリケーションをホスト端末上で起動するために使用します。



ドロップダウンメニューが表示され、ここからホスト端末上で実行したい特定のコマンドを選択します。利用可能なコマンドは以下の通りです：ロック、ログオフ、再起動、シャットダウン。

切断タスク



選択したホスト端末へのセッションをすべて切断します。

ドロップダウンメニューから「すべて切断」オプションを選択すると、すべてのホスト端末とのセッションを終了できます。また、リスト上の特定のホスト端末とのセッションだけを終了することも可能です。



最初の接続を確立する

最初のセッションまたはコマンドタスクを実行する際、プログラムはリモートホストコンピューターまたは端末に接続します。ホスト端末のセキュリティ設定によっては、パスワードなどの資格情報を入力する必要がある場合や、ホスト側の担当者がアクセスを許可または拒否するまで待機する必要がある場合があります。



ホスト端末が二要素認証（2FA）で保護されている場合、検証コードの入力も求められます。

この検証コードは通常、スマートフォンなどで生成されます（第二の認証要素）。例えば、Google Authenticator や Microsoft Authenticator などのアプリで生成できます。

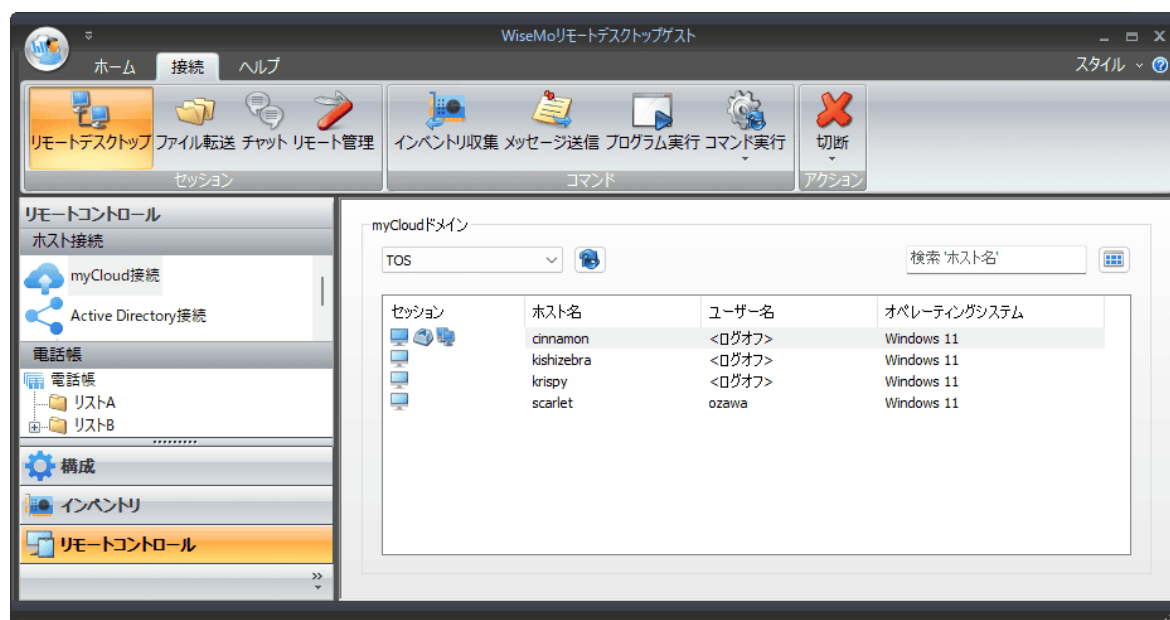
二要素認証の設定に関する詳細は、この [ドキュメント](#) をご参照ください。（英語のドキュメントになります。）



セキュリティの一元管理と制御に mDAC（myCloud デバイスアクセス制御）が使用されている場合、リモートコンピューターや端末の画面が表示されるだけです。この場合、すでにバックグラウンドで、どのコンピューター/端末で誰が何をできるかを管理する、myCloud ドメインによる認証が完了しています。それ以外の場合は、myCloud ドメインへのサインインが求められ、その後認証が行われます。

2.4 「myCloud 接続」メニュー

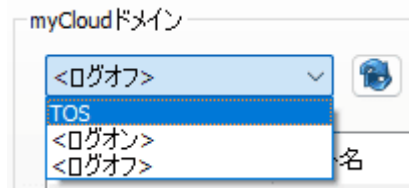
左ペインにある「myCloud 接続」項目を選択すると、右ペインに myCloud 対応ホストの一覧が表示されます。ただし、myCloud ドメインにログオンしている場合に限りです。



現在の接続状況とセッションタスクが表示されます。複数のホストに同時に接続可能であり、各ホストに対して複数のセッションタスクを同時に実行することができます。

上記の画面は myCloud 対応ホストの一覧表示です。各テキスト列は並べ替え可能であり、検索フィールドも装備されています（最後に並べ替えた列に対して機能します）。

ログオン/ログオフ



ドメインへのログオン/ログオフが可能で、複数のドメイン間で簡単に切り替えることができます。

ログオンするには、ご自身の myCloud ユーザーアカウントの資格情報（メールアドレスとパスワード。myCloud ユーザーアカウントが二要素認証（2FA）で保

護されている場合は検証コードも必要です）を入力してください。

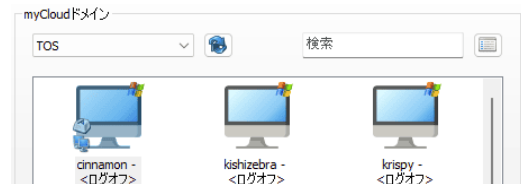
「パスワードを保存」オプションを使用すると、リンクされた資格情報が保存されるため、ゲストを開始するたびに資格情報を入力する必要がなくなります。ただし、myCloud アカウントが二要素認証で保護されている場合は、ログオンのたびに検証コードを入力する必要があります。



myCloud が有効化されたホストの一覧



このボタンを切り替えると、オンラインホストの表示レイアウトを変更できます。オンラインホストの表示方法として、リスト表示、大きなアイコン表示、小さなアイコン表示（右の例を参照）から選択できます。リスト表示では、テキスト列の並べ替えや検索が可能です。



ゲストウィンドウにフォーカスが当たっている場合、ホストコンピューターが myCloud ドメインに参加または離脱するたびに、ホスト一覧が自動的に更新されます。更新ボタンを手動で押すことで、リストの更新を要求することもできます。



検索フィールドを使用すると、入力された文字列を含むエントリのみを一覧表示できます。多数のホストエントリがある場合に非常に便利です。

検索フィールドは、リストビューで最後にソートされた列に対して機能します。例えば、オペレーティングシステムの列でソートした状態で「Windows」と入力すると、Windows を実行しているホストエントリのみが表示されます。

myCloud 対応ホストへの接続

表示されている myCloud 対応ホストの一覧から、ホストに接続するには 3 つの方法があります。

1. ホストをダブルクリックして、リモートデスクトップセッションを開始します（これは構成メニューで定義されているデフォルトのセッションタイプです）。
2. ホストを右クリックすると、ドロップダウンメニューから実行したいセッションタスクまたはコマンドタスクを選択することもできます。各メニュー項目の詳細については、2.3 「接続タスク」の説明を参照してください。接続プロパティ項目については以下で解説します。
3. 最後に、1 つ以上のホストを選択した後、接続タブのボタンからタスクを選択できます。例えば、3 台のホストからインベントリを収集する場合、リストから 3 台のホストを選択し、「インベントリ収集」ボタンを押します。別の例として、Windows PC に対して「コマンド実行/ログオフ」機能を使用してログオフさせることもできます。



接続プロパティ

接続プロパティには、ログオン資格情報を事前に定義する機能や表示設定など、さまざまな設定項目が含まれています。ホストに接続する際には、特に設定が指定されていない限り、デフォルトの接続プロパティが使用されます。ただし、ホストごとに個別にプロパティを設定している場合は、その設定が適用されます。

myCloud 対応ホストを右クリックして「接続プロパティ」を選択することで編集できます。変更を加えた場合、メニューにはこのホストの接続プロパティをデフォルトの接続プロパティに再設定するオプションが表示されま

す。デフォルトの接続プロパティは、「構成」>「デフォルト接続プロパティ」で定義されています。（利用可能な設定項目の詳細については、2.8 「接続プロパティ」を参照してください。）

2.5 「LAN とすべての接続」メニュー

現在の接続状況

右側のパネルには、myCloud および TCP/IP 接続を含むすべての現在の接続の一覧が表示されます。これらの接続がどこから確立されたかにかかわらず（myCloud、コマンドライン、デスクトップ、電話帳など）、すべてが表示されます。

各ホストに対して実行中のセッションタスクが表示されます。複数のセッションタスクが同時に実行されている場合があるためです。

現在の接続先		
セッション	ホスト名	通信プロファイル
	192.168.9.97 macOS	TCP/IP (TCP) myCloud (mydomain)

リモートデスクトップセッションでキーボードおよび/またはマウス入力が行われている場合、「キーボードボタン」のアイコンが表示されます。セッション中にキーボードとマウスの入力状態が変化する可能性がある点にご注意ください。

接続されているホストを選択し、右クリックするか、接続タブのボタンを使用して、別のタスクを開始したり、実行中のセッションタスクを終了したり、そのホストコンピューター/端末との接続を切断してすべてのセッションを終了したりできます。

特定のホストに接続

この方法を使用して、特定のホストコンピューターまたは端末に接続します。通常は TCP/IP 経由で接続し、ホストコンピューター/端末の IP アドレスまたは DNS 名を知っている場合に使用します。

a.
ホスト名フィールドにアドレスを入力します。

b.
TCP/IP（または myCloud）を選択します。

接続先

ホスト名 (ホストID, IPアドレスまたはコンピューター名):	通信プロファイル:
	TCP/IP (TCP)

 接続(O)  接続プロパティ(P)

c.
接続タブのボタンのいずれかをクリックします。あるいは代わりに Enter キーまたは接続ボタンをクリックすることで、デフォルトのセッションタスクを使用して接続できます。通常はリモートデスクトップ接続となります（デフォルトのセッションタスクは構成メニューで定義されます）。

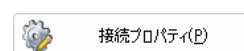
使用されるアドレスはホスト名履歴リストに保存されるため、以前に接続したホストに簡単に再接続できます。接続履歴は、構成メニューの「ユーザーインターフェース」項目から削除可能です。

共有リンクまたは招待リンクを使用して接続する

特定のホストで生成された招待リンク（または myCloud ウェブインターフェースで生成された共有リンク）を受信した場合、そのリンクをホスト名入力欄に貼り付けて「接続」ボタンをクリックします。ゲストは、myCloud を介してそのリンクが作成されたホストに接続できます。この際、ご自身がこの myCloud ドメインにログオンしている必要はありません。

接続プロパティ

「接続プロパティ」ボタンをクリックすると接続プロパティを編集できます。LAN とすべての接続に使用される設定です。



接続プロパティには、ログオン資格情報を事前に定義する機能や表示設定など、さまざまな設定項目が含まれています。（利用可能な設定の詳細については、2.8 「接続プロパティ」を参照してください。）

設定を変更していない場合、使用される設定は「構成」>「デフォルト接続プロパティ」で定義されているデフォルトの接続プロパティとなります。

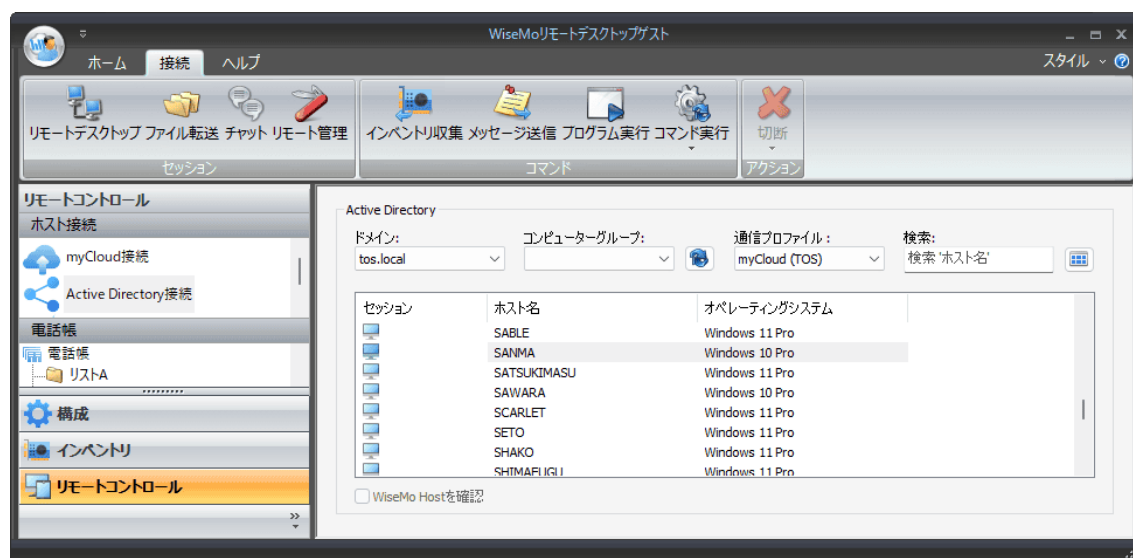
接続プロパティボタンは、デフォルト設定から変更されると分割ボタンに切り替わります。接続プロパティをデフォルト値にリセットするには、下向き矢印をクリックして「接続プロパティをリセット」を選択してください。

2.6 Active Directory 接続について

WiseMo は、Windows Active Directory (AD) と緊密に統合することで、ローカルエリアネットワーク内のリモートコントロールセッションに対して、集中管理された端末検出、認証、および認可機能を提供します。

ゲストコンピューターが Windows ドメインに参加している場合、「Active Directory 接続」オプションが表示されます。

WiseMo ゲストを使用すると、1 台以上のコンピューターを含む Active Directory グループを列挙できます。これらのグループはユーザーに提示され、グループを選択するとそのメンバーコンピューターが表示されます。専用の Active Directory グループを作成・管理することで、ドメイン管理者は特定のゲストユーザーに対して、WiseMo 専用のサーバー設定を一切行わずに、どのコンピューターが表示可能でアクセス可能かを集中管理できます。

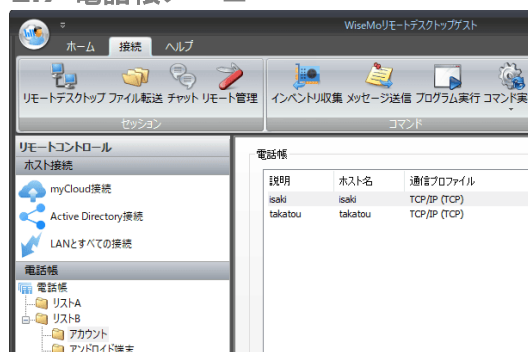


Windows ドメインとコンピューターグループを選択し、「WiseMo ホストの有無を確認」を選択してください。

表示されたリストからホストを選択し、右クリックするか、接続タブのボタンを使用して、接続の開始や別のタスクの実行、アクティブなセッションタスクの終了、または接続を切断して当該ホストコンピューター/端末とのすべてのセッションを終了することができます。

Active Directory 統合に関する詳細な説明は、[このガイド](#)で確認できます。（英語のマニュアルになります。）

2.7 電話帳メニュー



電話帳は階層型のフォルダ構造になっており、ホストエントリを整理できるほか、各ホストエントリに対して個別の接続プロパティを設定することが可能です。

フォルダの作成方法

左側のペインにある「電話帳」項目を右クリックすると、サブフォルダを作成できます。フォルダを右クリックすると、名前の変更、削除、またはサブフォルダの作成が可能です。フォルダを選択すると、右側のペインにホストエントリが表示されます。

ホストエントリの作成方法

ホストエントリはどのレベルのフォルダにも作成できます。まずフォルダを選択し、続いて右側のペイン内で右クリックすることで、そのフォルダにホストエントリを追加できます。各ホストエントリは個別のファイルとして管理されます。

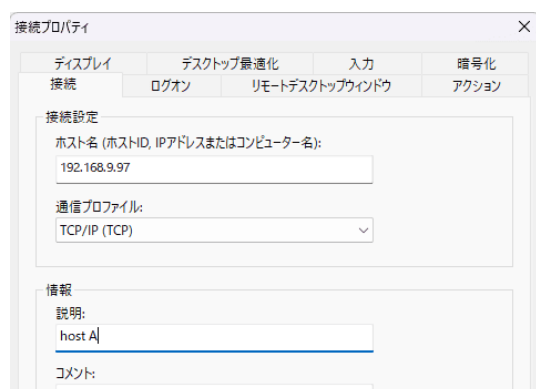
ホストエントリを右クリックすると、その項目を削除または編集できます。

ホストエントリファイルのドラッグ&ドロップ操作をサポートしているため、電話帳内でのホストエントリの移動やコピー、あるいはデスクトップへのドラッグ&ドロップが可能です。

注意：「myCloud」接続リストからホストエントリを電話帳フォルダに直接ドラッグ&ドロップすることも可能です。

電話帳のルートフォルダの場所は、構成セクション（「構成」>「フォルダ」）で定義できます。この機能は、複数のゲストユーザーが共有可能なサーバー上の電話帳を設定する際に便利です。

ホストエントリの編集方法



各ホストエントリには、ホスト名、説明、および接続プロパティが含まれています。また、任意でコメントを追加することも可能です。

最低限、ホスト名を入力する必要があります。ホスト名は自動的に説明として複製され、その後必要に応じて変更できます。デフォルトの接続プロパティはそのまま使用されます。

（利用可能な設定項目の詳細については、2.8「接続プロパティ」を参照してください）。

説明は、例えば LAN とすべての接続ページで接続先のホストを識別するために表示されます。

ホストへ接続

1.

ホストエントリをダブルクリックすると、リモートデスクトップセッションタスクが開始されます。（デフォルトのセッションタスクは「構成」メニューで定義されています）。

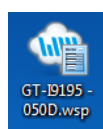
2.

ホストエントリを右クリックし、表示されるポップアップメニューから実行したいタスクを選択することもできます。各項目の詳細については、2.3「接続タスク」を参照してください。

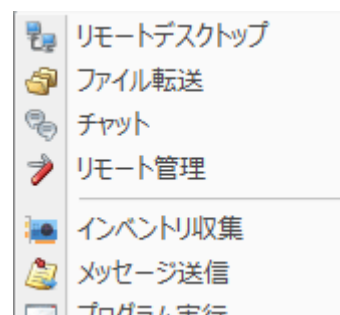
3.

フォルダ内の1つ以上のホストを選択し、「接続」タブのボタンからタスクを選択できます。例えば、3台のホストからインベントリ情報を収集する場合、まず3台のホストを選択した後、「インベントリ収集」ボタンを押すか、「コマンド実行/ログオフ」を選択して3台すべてのWindowsホストでログオフを実行します。

4.



電話帳ホストエントリは、任意のWindowsフォルダに配置できます。PCのデスクトップ上にも配置可能です。このような電話帳ファイルから直接接続できます。デフォルト接続を行うにはダブルクリックし、メニューから可能なセッションタスクを選択するには右クリックしてください。電話帳ファイル(.wsp)はXMLファイルであり、パスワードを除き、XMLスキーマに従っている限り、任意のテキストエディターですべての属性を編集可能です。



2.8 接続プロパティ

接続プロパティは、リモートコンピューターや端末に接続する際に使用します。

デフォルトの接続プロパティは、メニュー項目「構成 > デフォルト接続プロパティ」で定義されます。電話帳ホストエントリ内で個別に指定した場合や、myCloud 対応ホストまたは Active Directory 接続ビューに表示されるホストを右クリックして個別のプロパティを設定した場合を除き、デフォルト値が使用されます。

接続プロパティは 7 つのタブに分類されており、各タブの詳細は以下に説明します。

2.8.1 ログオンタブ

ホストがゲストの認証に使用する資格情報を事前定義します。ユーザー名、パスワード、ドメイン/ワークグループなどの資格情報は、ホストが定義した認証方法に応じて使用されます。資格情報が誤っている場合や不足している場合、ホストへの接続時にゲストが不足している資格情報の入力求めます。ホストが二要素認証 (2FA) を有効にしている場合、検証コードの入力も求められます。

ホストコンピューターで選択した認証方法が「Windows セキュリティ管理」の場合、「現在のログオン資格情報を使用する」を選択すると、Windows PC（ここでゲストを実行している PC）でサインイン時に使用した資格情報が最初に試行されます。そのため、事前に定義した他の資格情報よりも優先されます。

ディスプレイ	デスクトップ最適化	入力	暗号化
接続	ログオン	リモートデスクトップウィンドウ	アクション

ホストログオン資格情報

ユーザー名:

パスワード:

ドメイン:

☒ 現在のログオン資格情報を使用する。

すべてのフィールドはオプションですが、ログオンプロセスの自動化に役立ちます。

2.8.2 リモートデスクトップウィンドウタブ

リモートデスクトップウィンドウの設定は、接続時にリモートデスクトップ画面を含むゲストウィンドウをどのように表示するかを決定します。

ウィンドウ表示

リモートデスクトップ画面を表示するウィンドウです。

全画面表示

ウィンドウ枠のない全画面表示ウィンドウで、リモート画面を表示します。

最大化

リモート画面を最大化ウィンドウで表示します。

最小化

リモート画面を最小化ウィンドウ内に保持します。

リモートデスクトップウィンドウの起動位置設定では、ウィンドウのサイズと位置を事前に定義できます。

スキン設定では、端末に接続する際にスキンをどのように適用するかを制御します。

自動

プログラムが端末に適したスキンを選択します（WiseMo データベースからダウンロードされます）。該当するスキンがない場合、またはダウンロードが不可能な場合は、WiseMo が設計したデフォルトスキンが使用されます。

スキンを使用しない

リモートデスクトップはウィンドウ内に表示され、スキンは適用されません。

特定のものを使用

このオプションは、特定の端末に対応したスキンが存在しない場合に便利です。使用したい特定のスキンの名前を入力してください（例：端末と同様の外観のスキンなど）

スキンをダウンロードすると、自動的にゲストコンピューターにキャッシュされます。詳細は第 9 項「構成メニュー - スキン」を参照してください。

透明なウィンドウとして表示

スキンはウィンドウ枠なしで表示されます（スキンはデスクトップ上で自由に浮かんでいる状態になります）。

ディスプレイ	デスクトップ最適化	入力	暗号化
接続	ログオン	リモートデスクトップウィンドウ	アクション

リモートデスクトップウィンドウ

☒ ウィンドウ表示

☐ 全画面表示

☐ 最大化

☐ 最小化

リモートデスクトップウィンドウの起動位置

☐ 有効

X: 0 幅: 50

Y: 0 高さ: 50

スキン

☒ 自動

☐ スキンを使用しない

☐ 特定のものを使用:

☐ 透明なウィンドウとして表示

2.8.3 アクションタブ

ホストとの接続時に自動的に実行される操作です。ただし、この操作はホスト側のセキュリティ設定で許可されている場合にのみ実行されます。

セッションの記録

リモートデスクトップ操作のセッションを記録し、一般的な閲覧可能なファイル形式（.mp4）で保存します。この機能を使用するには、インストール時に Cisco 製のコンポーネントをダウンロードしておく必要があります。

ホストのキーボードとマウスをロック

ゲストが接続されている間、ホスト PC のユーザーはキーボードとマウスを使用できなくなります。

ホストに空白表示

ホスト PC の画面は非表示になるか、または汎用の WiseMo イメージで覆われるため、ホスト側で操作内容が閲覧されることはありません。

他のゲストの接続を一時停止

WiseMo 製品では、許可されている場合、複数のゲストを同じホスト PC に接続することが可能です。この設定により、あなたが接続している間は、他のゲストが接続することを防止します。

ディスプレイ	デスクトップ最適化	入力	暗号化
接続	ログオン	リモートデスクトップウィンドウ	アクション

セッションの記録

☐ リモートデスクトップセッションを記録

OpenH264 Video Codec provided by Cisco Systems, Inc.

接続時のホストに対するアクション

☐ ホストのキーボードとマウスをロック

☐ ホストに空白表示

☐ 他のゲストの接続を一時停止

2.8.4 ディスプレイトab

リモートデスクトップウィンドウの表示法の設定は、ゲスト PC 上のウィンドウ内でリモートデスクトップをどのように表示するかを決定します。

ウィンドウをホスト画面に合わせる

ウィンドウは、可能であればホスト画面に合わせてサイズ調整されます。ホスト画面がゲスト画面よりも大きい場合、スクロールバーが表示されます。

ホスト画面をウィンドウに合わせる

ホスト画面がゲスト PC 上のウィンドウ内に収まるよう、拡大または縮小されます。つまり、ホストデスクトップ全体がウィンドウ内に表示されます。

合わせない

ホストデスクトップもゲストウィンドウもサイズ調整されません。

画質設定はパフォーマンスと画質のバランスを最適化します。

「スライダー」機能について

画面表示の画質と画面転送速度の優先順位を調整します。スライダーで圧縮方式と圧縮レベルを設定できます。中央位置がデフォルト設定で、プログレッシブ品質との組み合わせに最適です。

「プログレッシブ品質」の切り替え

3 種類の非可逆圧縮方式のいずれかを選択している場合、アイドル時間を利用して画質を完全な状態に近づけます。

ホストモニター選択設定では、複数モニターを搭載したホストコンピューターを遠隔操作する際に、どのモニターを制御するかを事前に指定できます。

すべてのモニター

リモートデスクトップウィンドウにすべてのモニターの内容を表示します。

プライマリモニター

リモートデスクトップウィンドウにプライマリモニターの内容のみを表示します。

接続	ログオン	リモートデスクトップウィンドウ	アクション
ディスプレイ	デスクトップ最適化	入力	暗号化

リモートデスクトップウィンドウの表示法

☒ ウィンドウをホスト画面に合わせる

☐ ホスト画面をウィンドウに合わせる

☐ 合わせない

画質

品質 速度

非可逆圧縮 - 中

☒ プログレッシブ品質

ホストモニター選択

☒ すべてのモニター

☐ プライマリモニター

☐ モニター番号:

☐ 画面領域:

X: 幅:

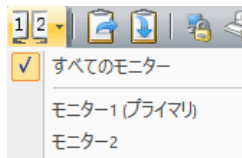
Y: 高さ:

モニター番号

リモートデスクトップウィンドウに表示する特定のモニターを指定します。

画面領域

リモートデスクトップウィンドウに表示したい領域を指定します。



ホストモジュールが対応している場合、リモートデスクトップセッション中にゲストモジュールのモニターボタンを使用して、利用可能なモニター間を動的に切り替えることができます。

2.8.5 デスクトップ最適化タブ

これらの設定は、接続時にホストコンピューターの画面をどのように調整すれば最適なパフォーマンスが得られるかを規定します。

最適化

最適化を適用するかどうかを定義します。

完全最適化

すべての利用可能な最適化機能を使用する場合はチェックを入れてください。

使用しない特定の最適化機能を無効にすることができます。
利用可能な機能は以下の通りです：

壁紙

リモート画面の壁紙を削除します。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを無効化します。

アニメーションの仕掛け

リモートデスクトップが通常使用する様々なアニメーションの仕掛けを無効化します。

全画面ドラッグ

ウィンドウをドラッグする際、表示されるのはウィンドウ枠のみで、内容部分は表示されません。

アクティブデスクトップ

無効化します（古い Windows PC で使用されていた機能です）。

Aero

Aero 機能（ウィンドウ枠の透過表示など）を無効化します。

画面密度の最適化

ホスト側が高解像度画面に対応している場合、画面転送の速度を向上させることができます。



最適化機能が実際に適用されるかどうかは、ホスト側のオペレーティングシステムとそのバージョンによって異なります。



リモートデスクトップセッション中は、「完全最適化」が事前に設定されていない場合、デスクトップの最適化機能を簡単にオン/オフ切り替えることができます。

2.8.6. 入カタブ

キーボード設定では、ゲストコンピューターのキーボードで入力されたキーストロークの処理方法を制御します。

デフォルトでは、「ホスト側のキーボードレイアウト」方式がホストコンピューターへのキー入力転送に使用されます。これは、ゲストコンピューターとホストコンピューターのキーボードが同じ種類の場合に特に有効です。

「ゲストキーボードレイアウトを使用」オプションをチェックすると、代わりに「ゲスト側のキーボードレイアウト」方式がデフォルトで使用されます。「ゲスト側のキーボードレイアウト」では、ゲストコンピューターのキーで入力された文字がそのままホスト側に送信されます。ゲストコンピューターとホストコンピューターで異なるキーボードレイアウトを使用している場合に便利です - 例えばフランス語キーボードと英語キーボードの場合など。ホストコンピューターに接続している間は、ゲストコンピューターのユーザーインターフェースから簡単に 2 つのモードを切り替えることができます。

注意：ゲストキーボードレイアウトを有効にすると、日本語の入力がうまくいかない場合があります。問題が発生した場合には、ゲストキーボードレイアウトを無効化してください。

マウス設定では、マウスイベントの表示方法や操作感を制御します。

接続	ログイン	リモートデスクトップウィンドウ	アクション
ディスプレイ	デスクトップ最適化	入力	暗号化

キーボード

- ☒ リモートキーボード(すべてのキーストロークをホストに送信)
- ☐ ローカルキーボード(特殊なキーストロークを送信しない)
- ☐ キーボード操作不可
- ☐ ゲストキーボードレイアウトを使用

マウス

- ☒ リモートマウス(すべてのマウスイベントを送信)
- ☐ ローカルマウス(クリックとドラッグ操作のみ送信)
- ☐ マウス操作不可
- ☒ ホストのマウスの動きを表示

リモートマウスオプションを選択すると、すべてのマウス操作がホスト側に送信され、ゲストコンピューター上には遠隔操作中のマウスカーソルの実際の形状が表示されるよう試みられます。もしホストコンピューター側でマウスポインターが表示されない場合、ゲストコンピューター側でもマウスポインターが表示されない可能性がありますのでご注意ください。

ローカルマウスオプションを選択すると、ホスト側の状況にかかわらず、常にゲストコンピューター上にマウスポインター（矢印）が表示されます。このオプションでは、クリック操作やドラッグ操作時のマウス位置情報のみが送信されます。

「ホストのマウスの動きを表示」機能を有効化すると、ゲストユーザーのマウスポインターがホスト側のマウス操作に追従します。これは、ホストユーザーのマウス操作を観察したり何かの操作を実演してもらったりする場合に便利です。ただし、注意すべき点として、ゲストのマウスポインターはリモートデスクトップウィンドウ上に配置されている必要があります。これによりホスト側のマウス操作が反映されます。この設定はホストに接続した状態で切り替え可能です。



2.8.7 暗号化タブ

接続で利用できる暗号化設定は、最終的にホスト側の定義によって決まります。

ただし、ゲストユーザーとして、あなたは自身の好みを指定することができます。ホスト側で許可されている場合、その設定が適用されます。

もしあなたの指定した設定がホスト側で許可されていない場合、ホスト側でより強力な暗号化レベルが許可されていれば、より強力な設定が使用されます。そうでない場合は、ホスト側で許可されているより弱いレベルの暗号化が使用されます。

接続	ログイン	リモートデスクトップウィンドウ	アクション
ディスプレイ	デスクトップ最適化	入力	暗号化

優先暗号化レベル

- 非常に高い
- クラシック
- なし
- データ整合性
- キーボード
- データ整合性とキーボード
- 高い
- 非常に高い

3. ホストコンピューターまたは端末のリモートコントロール

リモートデスクトップセッションを介してホストコンピューターまたは端末に接続すると、リモートデスクトップ画面またはその一部がゲスト PC の画面に表示されます。

リモートデスクトップの表示範囲は、さまざまな方法で調整できます。例えば、ウィンドウモードの場合はウィンドウサイズを変更するか、全画面モードに切り替えることで調整が可能です。

ウィンドウモード



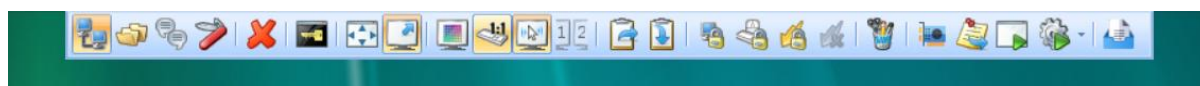
リモートデスクトップセッション中には、ホストコンピューターで他のセッションを起動したり、特定のコマンドを実行したりするなど、さまざまな操作が可能です（詳細は 3.1 を参照）。

ウィンドウモードでは、タスクボタンのメニューが表示されます。このメニューは通常、ウィンドウの上部に水平方向に配置されますが、モバイル端末用のスキンが表示されている場合は垂直方向に配置されることもあります。このメニューは必要に応じて分離することが可能です。例えば、ウィンドウが小さすぎてすべてのボタンが表示できない場合などに便利です。各タスクにはツールチップが用意されているので、操作したいボタンの上にカーソルを合わせるだけで説明を確認できます。



全画面モード

「全画面」モードで動作している場合、上部に巻き上げられる形式のツールバーが表示されます。

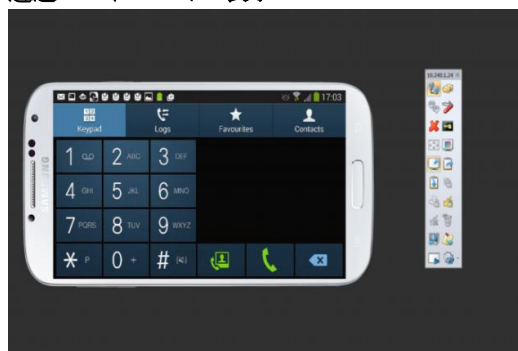


タスク項目の上にカーソルを合わせると、そのツールチップが表示されます。



ウィンドウモードと全画面モードの切り替えは簡単に行えます。全画面タスクボタンを使用してください。

透過モードのスキン表示



透過モードのスキンを使用してモバイル端末に接続している場合、各ホストごとに折りたたまれたフローティングツールボックスメニューが表示されます。

メニュー項目を常に表示させたい場合は、「固定」機能を使用できます。

タスク項目の上にカーソルを合わせると、そのツールチップが表示されます。



3.1 リモートデスクトップタスク



リモートデスクトップセッションでホストに接続している場合、このセッション用のタスクボタンメニューが表示されます。各タスクボタンは、ホストの種類とそのセキュリティ設定に応じて有効/無効が切り替わります。ボタンの上にマウスカーソルを合わせると、そのタスクの目的を説明するツールチップが表示されます。



セッションを終了することができます。

他のセッションタスクをこのホストで開始します。ファイル転送、チャット、リモート管理などの機能が利用可能です。タスクボタンを無効化することでセッションタスクを終了するか、接続自体を完全に切断してすべてのセッションを終了することができます。



Ctrl+Alt+Del キーの組み合わせをホスト側に転送します。通常、**Windows PC** へのリモートログオン時に使用されます。



ホスト側の画面をウィンドウサイズに合わせて拡大表示します。これにより、ウィンドウ内にリモートデスクトップ全体を表示できます。この設定を使用しない場合、リモートデスクトップはウィンドウ内で実際のサイズで表示されます（スクロールバーが表示され、一部しか表示されない場合もあります）。



全画面モードとウィンドウモードを切り替えます。



デスクトップ全体の最適化と、接続プロパティで設定した最適化設定を切り替えます。



ゲスト側のキーボードレイアウトを使用する場合は有効にします。それ以外の場合はホスト側のキーボードレイアウトが使用されます。ゲスト側とホスト側のコンピューターが同じ種類のキーボードを使用している場合は、ホスト側のキーボードレイアウトを使用してください。押したキーがリモートの **Windows PC** で期待通りの結果を得られない場合は、この設定を切り替えてみてください。



ホスト側のマウス操作を表示する／表示しないを切り替えます。ホストコンピューターを使用するユーザーのマウス操作を確認したい場合に便利です。



ホスト側に複数のモニターが接続されている場合、モニターの表示を切り替えます。リモートコントロールウィンドウ内で、すべて接続されているモニターを確認することも可能です。



ゲスト側のクリップボード内容をホスト側に転送します（自動転送機能を使用していない場合）。ホスト側のクリップボード内容をゲスト側に転送します（自動転送機能を使用していない場合）。



ホストの種類とそのセキュリティ設定に応じて、ゲストユーザーは次の操作が可能です：ホストに空白表示、ホストのキーボードとマウスをロック、ホストへの他のゲスト接続の一時停止、このホストに接続中の他のすべてのゲストの切断。



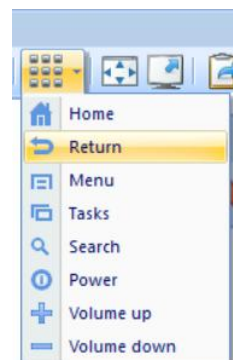
ホスト **PC** 上で **WiseMo** マーカーユーティリティを起動/終了します。ホスト画面へのマーキング、書き込み、ハイライト表示、または黄色のステッカーメッセージを残すための便利な機能が揃っています。



インベントリ収集、メッセージ送信、プログラム実行、ロックやログオフなどのコマンド実行を行うためのタスクボタンです。



ファイルボックスを開き、ゲストユーザーとホスト間でのファイル共有を簡単に行えます。ファイルをファイルボックスにドラッグするだけで、それらは自動的に反対側のファイルボックスに送信されます。同様に、ゲストユーザーはホストから送信されたファイルを閲覧・操作することが可能です。



スキン表示のない端末に接続中

通常、端末をリモート操作する際には、端末のスキン（画像）を表示したいものです。これにより、音量ボタン、ホームボタン、戻るボタンなど、端末上の各種ボタンにアクセスできるようになります。

スキンが表示されない場合は、代わりに端末ボタンのドロップダウンメニューを使用できます。

3.2 リモートデスクトップステータスバー

ウィンドウモードで操作している場合、ウィンドウの下部フレームにはセッションの状態情報が表示されます。



00:15:23 現在このホストに接続している時間が表示されます。

リモートキーボード リモートキーボード制御が有効になっているかどうかが表示されます。

リモートマウス リモートマウス制御が有効になっているかどうかが表示されます。

4 ステータスアイコンは現在使用されている暗号化レベルを示します。利用可能な暗号化レベルの詳細については、「接続プロパティ」>「暗号化」タブを参照してください。

📋 簡潔に表示されるアイコンは、自動クリップボード転送を通知するためのものです。自動クリップボード転送が有効になっている場合でも、クリップボードのサイズが許可されている上限を超えている場合、このアイコンが表示されて通知されます。新しいクリップボードが転送可能になったことを示します。自動クリップボード転送が無効になっている場合、このアイコンはクリップボードが転送可能であることを通知するために表示されます。この場合、ツールバーから手動でクリップボード転送タスクを実行することができます。

3.3 マウスポインター

リモートデスクトップ操作時に「リモートマウス」機能を使用する場合、ゲスト側のマウスポインターは遠隔操作先のホストコンピューターの状況に合わせて動的に変化します。これにより、実際にその場にいるかのような操作感を得られます。

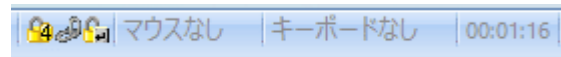
注意：一部のアプリケーションではマウスが非表示になる場合があります。この場合、ゲスト側にもマウスが表示されなくなります。常に「固定」されたマウスポインターを表示するには、接続プロパティの「入力」タブから「ローカルマウス」オプションを選択してください。

3.4 同一ホストに接続された複数のゲストユーザー

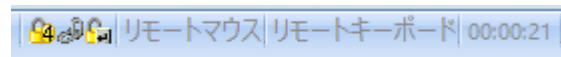
複数のゲストユーザーが同時に同じホストに接続することが可能です（許可されている場合）。これにより、複数のゲストユーザーが単一のリモートデスクトップ上で発生する操作をリアルタイムで確認できます。

すべてのゲストユーザーは画面を閲覧できますが、キーボード/マウス/入力操作を行えるのは同時に 1 人のゲストユーザーのみです。最初に接続したゲストユーザーが最初に入力操作権を取得します。

別のゲストユーザーが入力操作権を取得するには、マウスクリックなどの入力操作をホスト側に転送する必要があります。ウィンドウモード時には、音による通知と、ステータスバーに表示されるマウス/キーボードの状態表示でこの操作を確認できます。

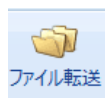


キーボードとマウスの操作権を取り戻すには、マウスクリックなどの入力操作をホスト側に転送してください。



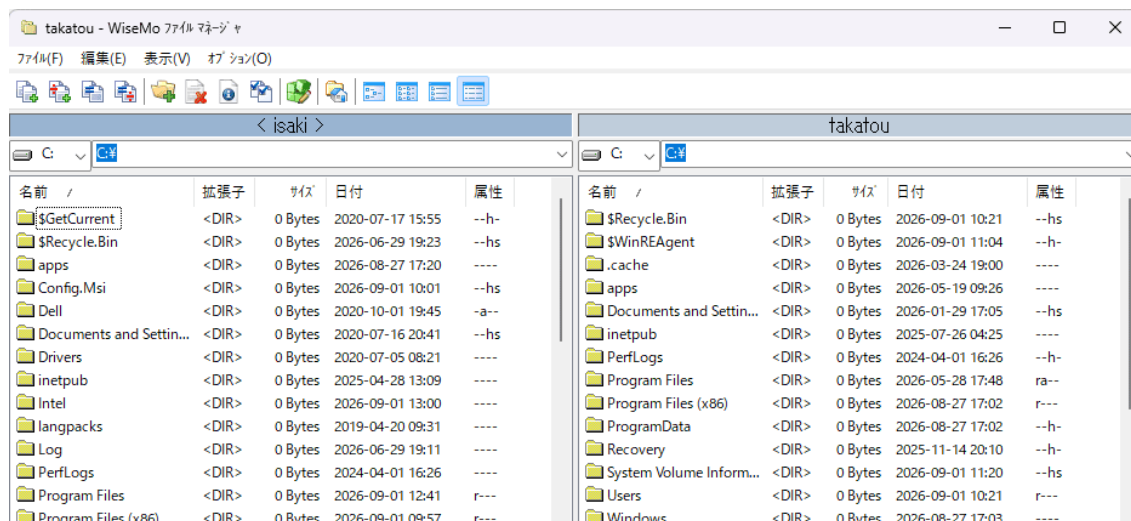
4. ファイル転送

ゲストプログラムには、ゲストとホスト間のファイル転送に使用される強力で非常に高速なストリーミングファイルマネージャーが搭載されています。このファイルマネージャーは、ホストがコンピューターであっても端末（スマートフォン、タブレット、または **Windows Mobile** や **CE** 端末などの非操作型端末）であっても機能します。



ホストを選択し、ファイル転送セッションを開始します。

別ウィンドウで分割画面のファイル転送画面が開き、ここからゲスト PC とホスト間でファイルやディレクトリ全体を簡単にドラッグ&ドロップで転送できます。

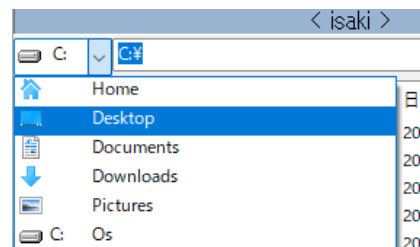


WiseMo ファイルマネージャーを使用すると、ゲストとホスト間でファイルやフォルダのコピー、移動、同期、クローン作成が可能です。ほとんどのコマンドでは、個々のファイルやフォルダ、またはフォルダ階層全体に対して操作を行うことができます。

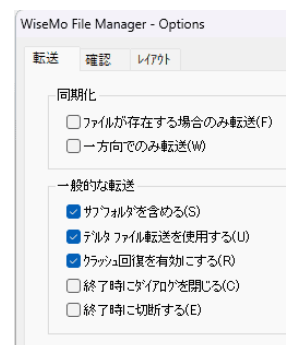
頻繁に使用するフォルダへのショートカットが用意されており、フォルダ階層を上下に移動することができます。

デフォルトではファイル転送にはデルタ転送方式を採用しており、ファイルのコピーにかかる時間を最適化します。デルタ転送方式では、両端末に既にファイルが存在する場合、変更された部分のみを転送します。

ファイルマネージャーでは転送状況の進捗情報や履歴も確認できます。



ファイルマネージャーには複数の設定オプションが用意されており、動作をカスタマイズすることで使い勝手を最適化することが可能です。



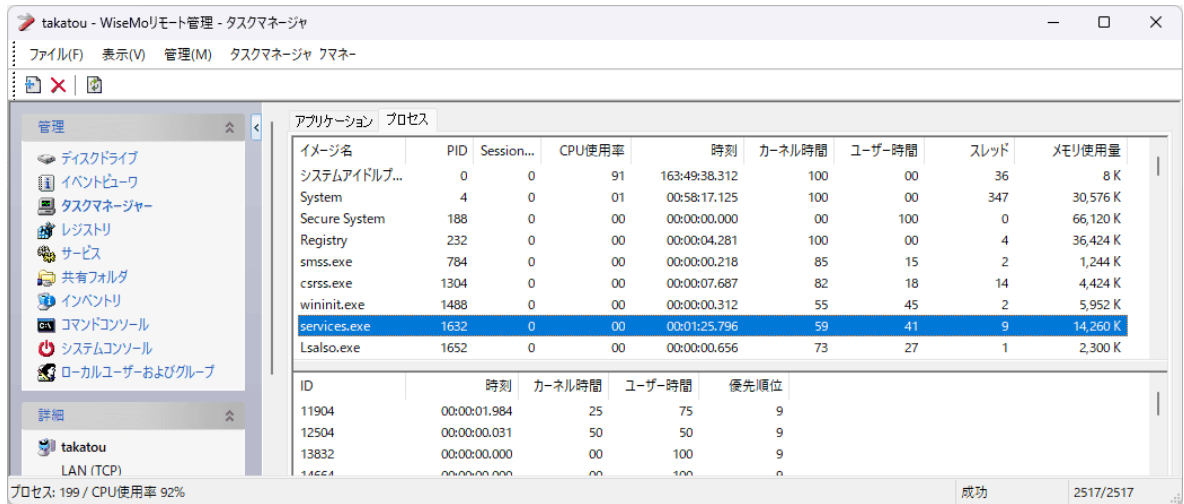
5. リモート管理コンソール

ゲストプログラムには、ホストコンピューターや端末上で情報を収集したりコマンドを実行したりするための強力なリモート管理コンソールが付属しています。この機能はリモートデスクトップの操作に影響を与えることなく使用できます。これにより、例えばリモートホストで作業しているユーザーの操作を妨げることなく、バックグラウンドで管理作業を行うことができます。



ホストを選択し、リモート管理セッションを開始してください。

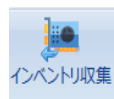
リモート管理コンソールが表示された別ウィンドウが開きます。



コンソールからは、接続しているホストの種類に応じて異なるシステム管理機能を利用できます。

6. インベントリ

ゲストプログラムには、ホストから情報を収集するための強力なツールが用意されています。このプログラムでは、ハードウェアとソフトウェアの両方に関する情報を収集できます。

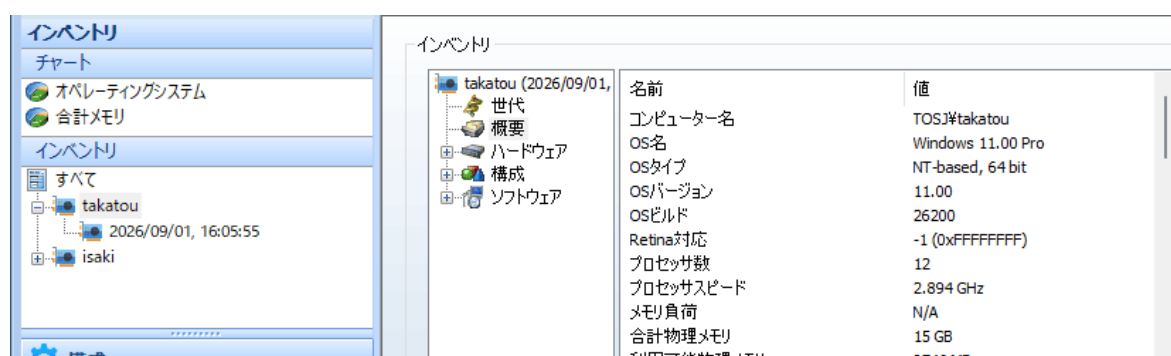
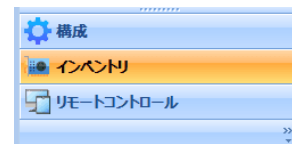


1 つ以上のホストを選択し、「インベントリ収集」タスクを実行することで、対象のホストに接続してハードウェアおよびソフトウェアの「インベントリ」を収集できます。

収集されたインベントリの結果はホストごとに XML ファイルとして保存され、ツリー構造で整理されます。これにより、サードパーティアプリケーションからも容易にアクセス可能となり、後の分析やレポート作成に活用できます。インベントリのルートフォルダの保存場所は、構成セクション（「構成」>「フォルダ」）で定義できます。例えば、複数のゲストユーザーが共有可能なサーバー上にインベントリを保存する場合などに利用できます。

ゲストインターフェースから XML 形式のインベントリにアクセスするには、メインカテゴリメニュー項目を使用します。このメニュー項目は、ゲスト用プログラムの下部にある左側のパネルからアクセスできます。

選択すると、インベントリストレージの一覧が表示されます。



最新のインベントリデータに基づく概要を表示するリストビューです。階層型インベントリ構造を通じて、各コンピューター/端末の詳細なビューに簡単にアクセスできます。

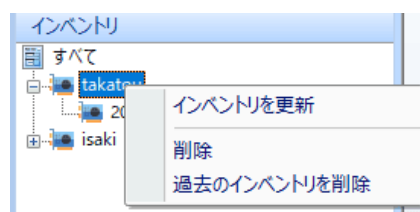
OSの分布状況とOSバージョンを種類別に簡単に確認できるチャートです。また、コンピューター/端末の総メモリー容量を迅速に把握できるチャートも提供しており、こちらはOSの種類・バージョン別に表示することも可能です。

インベントリのリフレッシュ操作

単一のインベントリを更新するのは簡単です。インベントリ一覧でホストを選択し、右クリックして「インベントリを更新」を選択するだけです。

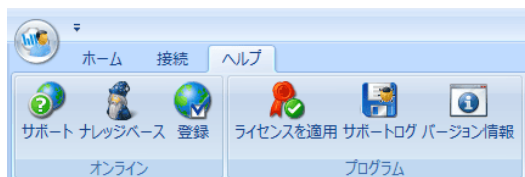
インベントリの削除

インベントリは個別に削除できるほか、一括操作で特定のホストに関するすべての過去のインベントリ、またはすべてのホストに関するすべての過去のインベントリを削除することも可能です。



7. ヘルプタブ

「ヘルプ」タブには、オンラインでサポートやその他のリソースにアクセスするためのボタンが用意されています。また、ゲストプログラム自体で利用できるボタンも配置されています。



サポート

このボタンをクリックすると、**WiseMo** のサポートページにアクセスできます。このページでは、不具合の報告や観察事項の提出が可能です。

ナレッジベース

WiseMo が提供する、当社製品モジュールの使用方法に関するよくある質問集に接続します。

登録

当社製品のユーザーであることをオンラインで登録するための、**WiseMo** の登録システムに接続します。

ライセンスを適用

ライセンスを設定できます。例えば、**WiseMo** ライセンスキーを入力することで、試用版キーから永続版キーへの切り替えを簡単に行うことができます。また、有効な **myCloud** ドメインのユーザーアカウントをお持ちであれば、**myCloud** 向けのライセンス設定も可能です。

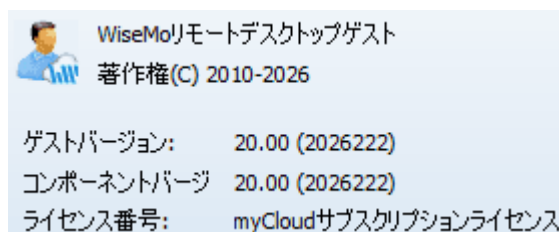
(別の方法として、**ProgramData** フォルダ内の「**Remote Desktop Guest**」フォルダにある **Guest.lic** ファイルを削除した後、ウィザードを実行することで、新しいタイプのライセンス設定を定義することも可能です。)

サポートログ

ゲストとホスト間の低レベル通信を記録した **WsmGuestWin.log** ファイルを保存します。トラブルシューティングの際に使用します。問題を報告する必要がある場合、このサポートログの保存・送付を依頼することがあります。

バージョン情報

バージョン情報画面では、バージョン情報、ライセンス情報、著作権表示など、プログラムに関する詳細情報を確認できます。



8. ホームタブ

「ホーム」タブでは、プログラム全体にわたる各種設定オプションを利用できます。

インポート/名前を付けて保存

設定内容は **XML** ファイルに保存されており、ユーザー任意の場所にインポートまたは保存することが可能です。

ウィザード

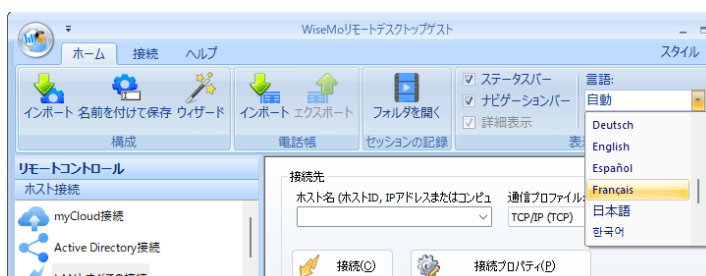
このボタンをクリックするとセットアップウィザードが起動します。

フォルダを開く

セッション記録ファイルの保存場所を開きます。

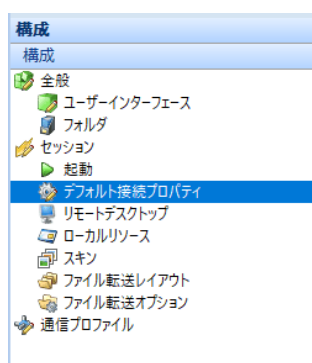
言語

使用可能な言語から選択してください。「自動」を選択すると、PC に設定されている言語が自動的に使用されます (利用可能な場合)。



9. 構成メニュー

構成メニューには様々なオプションが用意されています。



ユーザーインターフェース

ゲストコンソールの動作を制御します。また、ここで「LAN とすべての接続」ページに表示される接続履歴を削除することも可能です。さらに、プログラムが表示した様々なヒントを再表示して確認することもできます。

フォルダ

電話帳ファイル、インベントリファイル、およびセッション記録ファイルの保存場所をデフォルトの場所とは異なる場所に設定したい

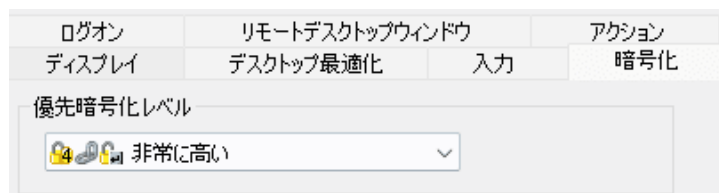
場合に使用します。例えば、複数のサポート担当者が共通で使用する電話帳ファイルをファイルサーバー上に定義したい場合などに便利です。現在の保存場所を確認するには「開く」ボタンを押すことができます。デフォルト設定に戻すには、フォルダフィールドを空欄にしたまま「適用」ボタンを押してください。

起動

ここで、どのセッションタスクをデフォルトとして設定するかを決定します（各種ビューで **Enter** キーを押すかダブルクリックした際に実行されるタスク）。工場出荷時のデフォルト設定は「リモートデスクトップ」です。また、ここでセッション記録を有効にすることも可能です。この場合、接続プロパティで定義された設定が上書きされます。

デフォルト接続プロパティ

特定の接続タイプに対して個別のプロパティが設定されていない場合のデフォルト接続プロパティを指定します。詳細はセクション 2.8 「接続プロパティ」をご参照ください。



リモートデスクトップ

これらの設定は、リモートデスクトップセッションに関連する外観と動作を制御します。

コントロールバー:

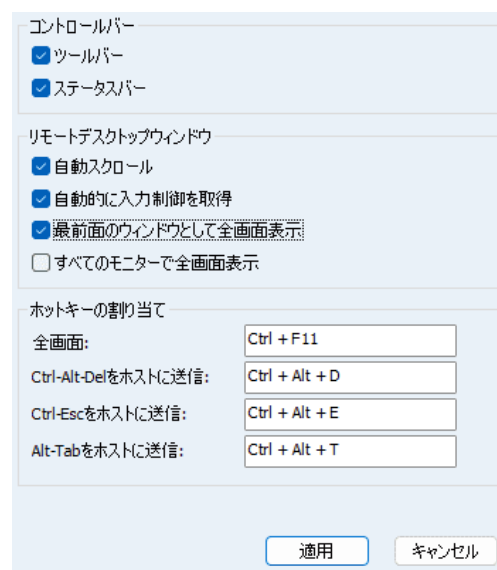
リモートデスクトップウィンドウにツールバーとステータスバーを表示します。

リモートデスクトップウィンドウ

「自動スクロール」機能を使用すると、マウスポインターがウィンドウ枠に近づくにつれて、ウィンドウ内に表示されているリモートデスクトップが自動的にスクロールされます。

「自動的に入力制御を取得」機能は、複数のゲストが同じホストを制御している場合、接続時に自動的に入力制御を提供します。

「最前面のウィンドウとして全画面表示」機能により、全画面モードの表示が他のデスクトップウィンドウの上に常に表示されるようになります。



「すべてのモニターで全画面を表示」機能は、PC に複数のモニターが接続されている場合に特に有効です。

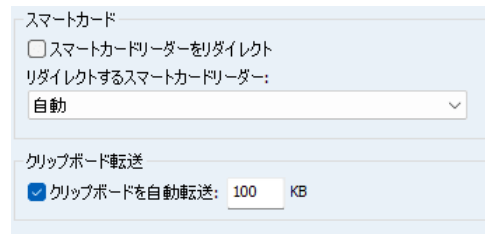
ホットキー割り当て

この機能を使用すると、一般的な操作用に特定のホットキーを設定できます。全画面モードとウィンドウモードの切り替えが可能になります。特定のキーの組み合わせは、ローカルのゲスト PC 上で Windows オペレーティングシステムによって処理されるため、ホスト PC には送信できません。この設定により、対応するキーをホスト側に送信するためのホットキーを定義することができます。

ローカルリソース

スマートカード

Windows PC に接続されている場合、スマートカードリーダーをゲスト PC にリダイレクトすることが可能です。これにより、ホスト PC 上でアプリケーションがスマートカードを必要とする際に、ゲスト PC にスマートカードを挿入して使用することができます。



スマートカード

☐ スマートカードリーダーをリダイレクト

リダイレクトするスマートカードリーダー:

自動

クリップボード転送

☒ クリップボードを自動転送: 100 KB

クリップボード転送

ゲスト PC とホスト PC 間でのクリップボードの自動転送を許可するかどうかを設定します。効率的なコピー&ペースト操作をゲスト PC とホスト PC 間で実現します。

注意：自動転送機能は、ホスト PC またはゲスト PC のクリップボードにデータをコピーした際に、自動的にクリップボードデータを他の PC に転送するかどうかを判断できません。機密データを扱う場合、他の PC のクリップボードにコピーされたくないデータがある場合には、ぜひこの自動機能を無効にすることをおすすめします。

自動転送するクリップボードの最大サイズを設定できます。例えば、大容量のデータが自動的に転送されるのを防ぎ、パフォーマンスの低下を回避するためにこの機能を活用できます。

スキン

スキンとは、アクティブなボタンを備えた端末の画像です。初回接続時、ゲストユーザーはデフォルトで WiseMo のスキンサーバーに接続し、端末に対応した最新のスキンをダウンロードして PC のキャッシュに保存します。モバイル端末の場合は、端末 ID を使用してスキンを検索します。端末 ID は、WiseMo モバイルホストアプリで確認できます。

特定の端末に対応したスキンが利用できない場合、ゲストユーザーはデフォルトのスキンを使用します。デフォルトのスキンに満足できない場合は、WiseMo までお問い合わせいただければ、ご指定の端末用のスキンをリクエストできます。

インターネット接続がない場合でも、スキンをローカルに保存するための複数のオプションが用意されています。



スキンリポジトリ

☒ オンラインスキン(デフォルト)

URL: skins.wisemo.com デフォルト

ポート: 443

☐ フォルダ内のスキンのみ使用

フォルダ: 参照...

☐ すでにキャッシュされているスキンのみ使用

開く...

☐ スキンを使用しない

プロキシ

☐ プロキシを使用

アドレス:

☒ 現在のWindows認証情報を使用

☐ 使用:

ユーザー名:

パスワード:

スキンは、スマートフォンなどのコンピューターやデバイスの画像です。スキンのボタンはアクティブになる場合があります。

なお、スキンはホストがモバイル端末ではなく Windows コンピューターなどの場合にも使用可能です。使用する特定のスキンは、ホストの接続プロパティで定義できます。端末 ID は Wisemo.ini ファイルで定義可能であるため、このようなスキンはモバイル端末と同様に、WiseMo スキンサーバーなどを通じて参照することもできます。

ファイル転送レイアウト

以下の設定を制御します：WiseMo ファイルマネージャーのレイアウト設定。アクティブなセッション中は、ファイルマネージャーのユーザーインターフェースからもこれらのオプションを設定可能です。

ファイル転送オプション

WiseMo ファイルマネージャーのデフォルト動作を制御します。これらのオプションも、アクティブなセッション中はファイルマネージャーのユーザーインターフェースから設定できます。

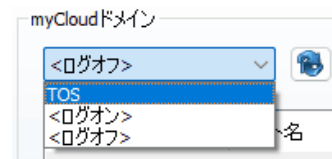
通信プロファイル

本プログラムで使用する通信プロファイルの高度な設定が可能です。

プログラムはTCP、UDP、およびmyCloud 接続を利用した通信をサポートしています。myCloud 通信プロファイルは、ログオンするmyCloud ドメインごとに個別に作成されます。

「通信プロファイル」画面からは、myCloud ドメインのログオン/ログオフ画面から表示不要となったmyCloud ドメインを削除することも可能です。

この操作は、該当するmyCloud プロファイルを削除することで行います。



10. Windows ゲストモジュールの更新または削除

ゲストアプリケーションの新しいバージョンまたはサービスリリースは、既存のバージョンの上にインストールすることができます。

既存のインストールを更新する場合、デフォルトでは設定とライセンスファイルが保持されます。

設定ファイル「guest.xml」およびライセンスファイル「guest.lic」は、通常以下のフォルダに格納されています：

「%ProgramData%\WiseMo\WiseMo RSM\Remote Desktop Guest」

Windows XP 環境では、WiseMo フォルダは通常以下の場所にあります（フォルダが非表示になっている場合があります）：

「%CommonAppData%\WiseMo\WiseMo RSM\Remote Desktop Guest」

インストール前に Guest.xml ファイルを削除すれば、デフォルトの設定で開始できます。guest.lic ファイルも削除可能です。その場合、ゲストウィザードは起動時にライセンス情報の入力进行を求めます。

Windows PC またはサーバーから WiseMo ゲストアプリケーションを削除する方法は、他の Windows プログラムを削除する場合と同様です。例えば、コントロールパネルの「プログラムと機能」オプションから実行できます（具体的な表示名称は Windows のバージョンによって異なります）。

ゲストプログラムのアンインストールでは、特定の一時ファイルやデータファイル、ライセンスファイルおよび設定ファイルは削除されません。このため、ライセンスや設定情報、電話帳の定義を失うことなく、バージョンをアンインストールして新しいバージョンを再インストールすることが可能です。

11. ゲストプログラムのライセンス情報

ゲストプログラムのバージョン 20 では、さまざまなライセンス方式を選択できます。

myCloudライセンス（サブスクリプション方式）

myCloud ライセンスを適用するには、ゲストモジュールをmyCloud ドメインに登録し、myCloud ユーザーアカウントを使用して認証を行ってください。ゲストコンピューターはインターネット経由で通信する必要があります。ゲストユーザーは、【myCloud 接続機能】と【直接的なTCP/IP 接続】を利用して、ホストプログラムが動作しているコンピューター/端末にアクセスできます。

インターネット経由でホストにアクセスする必要がある場合、またはゲストとホスト間の直接的なTCP/IP 接続に対してサブスクリプション型の課金モデルをご希望の場合には、myCloud ライセンスをご利用ください。

永続ライセンスキーをmyCloudライセンス対象のゲストに適用すると、そのライセンス形態は永続ライセンス（以下参照）に変更されます。

永続ライセンス（買い切り）

ゲスト端末に永続ライセンスキーを適用する必要があります。ゲストユーザーはTCP/IP 接続を使用してホスト端末にアクセスできます。

TCP/IP 経由で直接ホスト端末にアクセスする必要がある場合、またはインターネットを利用したくない場合には、永続ライセンスのご利用をお勧めします。

永続ライセンスを取得したゲスト端末は、myCloud ドメインにサインインすることで、myCloud 接続機能を利用できます。

試用ライセンス

ゲスト端末に試用ライセンスキーを提供した場合、ゲストモジュールは永続ライセンスを取得した場合と同様に動作しますが、利用期間は限定されます（試用ライセンスキーの発行をご希望の場合は [こちら](#) からお申し込みください）。

試用ライセンスから myCloud ライセンス方式へ切り替えるには、ヘルプタブから「ライセンスを適用」を選択してください。

12. 用語解説

コンピューター – ゲストモジュールまたはホストモジュールがサポートするオペレーティングシステムを搭載した、あらゆる種類のサーバー、ワークステーション、デスクトップ PC、ノート PC を指します。

端末 – ゲストモジュールまたはホストモジュールがサポートするオペレーティングシステムを搭載した、あらゆるスマートフォン、タブレット、セットトップボックス、スキャナー、その他の携帯型または無人操作端末を指します。

ゲスト – コンピューターや端末（例：PC、iPad、iPhone、Android 端末）にインストールされるモジュール、または対応ブラウザ上で動作するモジュールです。ゲストモジュールを使用することで、ユーザーはホストモジュールが動作している別の端末やコンピューターを遠隔操作することが可能になります。

ホスト – ゲストモジュールから遠隔操作される対象のコンピューターや端末にインストールされるモジュールです。具体的には、PC、Mac、スマートフォン、タブレット、セットトップボックスなど、対応オペレーティングシステムを搭載したあらゆる種類の端末が該当します。

ホスト構成マネージャー – ホストマネージャーまたはモバイルホストマネージャーとも呼ばれます。WiseMo ホストアプリケーションの設定を行うためのツールです。Windows デスクトップコンピューターにインストールされ、端末が USB 接続されている場合にはホストサービスや端末と通信を行います。

スキン – 端末の遠隔操作用グラフィカルユーザーインターフェースです。通常、これは遠隔操作対象の実機とほぼ完全に一致するグラフィック表示となっています。スキン上のボタンは「生きている」状態で、実機のボタン操作を忠実に再現します。つまり、スキン上のボタンのいずれかをクリックすると、実機側でも同様に同じ操作が実行される仕組みです。

通信プロファイル – ゲストモジュールとホストモジュール間の通信に用いるプロトコル設定です。主な通信方式は 2 種類あります：TCP/IP 方式と myCloud 方式です。ゲストからホストへ接続する前に、ゲスト側でどの通信プロファイルを使用するか指定する必要があります。

myCloud – 通信プロファイルの一種です。myCloud 通信はインターネットベースのプロトコルで、ファイアウォールやプロキシ、NAT (Network Address Translation) 対応ネットワークを介した接続を可能にします。これは WiseMo 社 myCloud のサブスクリプションベースサービスの一部として、コンピューターや端末間のリモート制御接続を容易にするために提供されています。

mDAC – myCloud デバイスアクセス制御機能です。誰がどのコンピューターや端末で何を行えるかを一元的に定義・管理します。